

昨年、中国の一隅から湧き出たコロナウイルスという暗雲が地球上空を覆い、新年を迎えても今なおその暗雲を払う有効な手立てを見出すことが出来ずに苦慮している。今年こそは人類の叡智がまさり、この暗雲を払い去る日が来る、という一縷の望みに思いを馳せながら、同時並行的に日本における音楽文化・とりわけクラシック音楽と言うジャンルについて思考する日々が続いている。

このことの一部に触れる。外出がままならない日々、テレビ、新聞と共に過ごす時が多く、そこで流れ語られる音楽は商業主義に裏打ちされたポピュラー系の音楽であり、クラシック音楽はわずか数パーセントに過ぎず、その少ない時間で演奏され語られる音楽はモーツァルト、ベートーベン、ショパン、チャイコフスキーなどお決まりの作曲家の作品であり、日本人の作曲家による作品に接する機会など皆無に等しい。

特にテレビでは、音楽をどう見せるかに知恵を絞り、ポピュリズムに徹した映像を執拗にながし、かつてあったクラシック音楽に割かれていた時間（市場）はポピュラー系の音楽に浸食されつくされている。ごく少ない、本当にごく少量のラジオ（耳で鑑賞できる音楽）で流れるクラシック系の邦人作品にいたっては、日本人のクラシック音楽ファンに答えられるものから程遠い。また邦人の作品には、ヨーロッパのどこそで学んでおり・・・外国で何とか賞をもらった偉い人の作品である・・・との解説付きの権威主義的音楽で日本のクラシック音楽ファンに答えられるものから程遠い。

明治時代に洋楽を導入し、今日まで日本人の心に浸みいるクラシック音楽を書いた邦人作曲家を数人でも挙げる事が出来るでしょうか？世界に誇れる交響的作品を挙げる事が出来るでしょうか？そのような作品が生み出されていても、ポピュラー音楽に浸食されている社会でそれを知る手だてがあるのでしょうか？九州作曲家協会設立の理念である「地域に根ざした音楽の創造」とはいかなるものなのでしょう？

日本人の手による日本人の為のクラシック音楽に接する日が近いことを、一日も早くコロナウイルスが退散してくれる日々が近いことを願いつつ、思考の筆を置くことにします。

オンラインを活用した新たな音楽制作実践例

吉田 峰明

新型コロナウイルスの影響下、ここに紹介するのは私のもとに舞い込んできた依頼事に基づくものですが、こういった作曲のあり方もありかと思ひ、紹介します（この方法そのものは私の発想ではありません。また、現在進行中のプロジェクトですので固有名詞等を含めずに紹介します）。

概要は「骨格となる音楽（「骨組音源」と称す）にネットを通して音源を寄せ合い、合作としてひとつの作品を作り上げる」という方法です。長崎・ソウル・上海の学生を対象に音源を提示し、応募してもらいました。

まず「骨組音源」は私が MIDI にて「メロディー＋ハーモニー＋ベース＋簡単なドラム」を「イントロ＋A(8小節)＋B(8小節)＋エンディング」にて制作しました（写真1）。作曲経験のない学生にも取り組めるようミディアムテンポの、ややポップな感じにしました。これを MP3 データにて提示します。

応募データはテンポとコードと尺を守る限り「骨組音源を飾る」「骨組音源に被せる」「イントロやエンディングを付ける」「リズムを付ける」など自由とし、「すべての応募データを反映する（修正を加えることもある）」としました。もちろん著作権的な問題が生じない措置はとります。そこで実際に寄せられたのが次の6データ。中国・韓国からも寄せられました。

- ・ピアノで被せる×2種（長いイントロもあり）
- ・民族楽器調のカウンターメロディー×3種
- ・エレクトーンによるアドリブっぽいメロディー

が、問題点が。

- ・フォーマットが MP3/WAV/AAC/M4A/楽譜/動画とばらばら（「MP3」と指定していたにもかかわらず）
- ・自由奔放？なコードのデータ
- ・音質が悪いデータもあった

しかしながらここからが勝負です。まず応募データを観察の上、「骨組音源」を3回反復させて3コーラスの楽曲にすべく枠を整えます。次いでそれらの音楽的内容から、ざっくりとどのデータをどこで用いるか判断し、DAWソフト上でおおまかなトラックングを行います（写真2）。

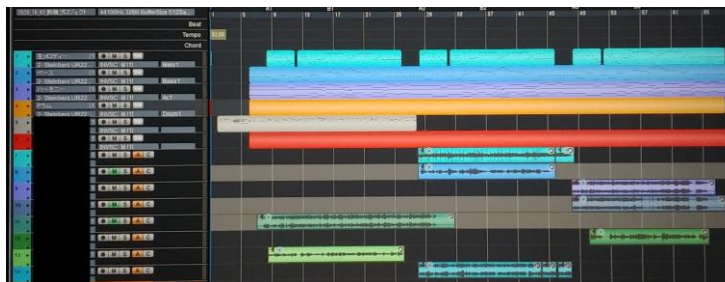
きちんとこだわりを持って制作された応募データは基本的な操作（カット・ペースト・ゲイン調整）程度でなんとかできます。ハーモニーが一致しないような作品は仕方がないので、耳コピーして MIDI で組み直すしかありません。



（写真1）骨組音源

ん。音質面でノイズが目立ったデータについては程度問題で、今回は他トラックに埋もれて目立たずに済みました。その上で、つなぎ部分等は私の方で制作しますし、クオリティを上げるために全体を通して何度もチェックを行い、微調整を加えていかねばなりません。

今回の報告はここまでになります。私の方でこれにちょっとしたサプライズを加える予定です（秘密ですが）。作曲とは本来、署名性を伴うもの（「〇〇作曲」）なのかもしれませんが、このように誰か一人の作品ではなく、数人でデータを寄せ合った合作を、しかも国境を越えて制作するというのも楽しいものです。完成作品についてはまたなにかの機会で紹介いたします。



(写真2) 編集画面

最近のピアノ教育における指導法について思うこと

熊本 陵平

コロナ禍より前から考えていたことですが、作曲理論を応用してピアノ教育の指導法に活用できないかということ随分と模索してきました。

子供のピアノコンクールで審査のお仕事をよく頂くのですが、これまで何百人と子供たちの演奏を聴いてきて、基本的な理論でさえ表現されていないことが多くありました。作曲家にとっては当たり前のことであっても演奏側にとっては知られていないことは沢山あります。例えば和音の基本形と転回形では響きが違うことや形式におけるAとBの違いだけでも一講座成り立つぐらいに知られていません。

この作曲側と演奏側のギャップ感ともいべき問題は、西洋音楽における歴史上、段々と分業化されてきた過程もその要因の一つと言えようと考えています。本来は、音楽家は作曲もして演奏もしたのに、いつの間にか分業化されていき、演奏も楽器の発展とともに伝統的奏法が発展してきたのです。作曲家は演奏も得意な方が多いですが、それでもやはり伝統的奏法を専攻として研究されてきた演奏家の方々に比べると、いわゆる「作曲家のピアノ」になってしまうのです。一方で器楽専攻の場合、指導者の演奏を真似ることが個人レッスンのよくある実態であり、楽譜はなぜこのように書かれたかは取沙汰にされないまままで終わるということはよくあります。このことが、作曲理論が演奏上で応用展開が今一つ成されない要因だと、私などは考えてしまいます。

伝統的奏法と楽譜に書かれたことを論理的に結びつけることは、今日においても求められる器楽教育の在り方の一つと言って良いでしょう。しかし、これができる人間は実は限られており、伝統的奏法の知識にも作曲の知識にも足を突っ込んだ人間にしかできないことと考えています。

2020年はコロナ禍によって、オンラインでの講座を余儀なくされましたが、このことによって全国の様々なピアノの先生方に受講して頂き、今まで窺い知れなかった



(昨年秋に広島で開催された公開レッスンより) 五線ボードに和音を書いて、和声の基本的な仕組みから表現方法を教えている様子

ことを知ることができました。それは、彼らにとって講座での内容はどれも学生時代に習ったことだけれど、それが何の役に立つかわからないまま忘れ去られてしまった事柄だったのです。これは、それを教えた学校教育のシステムにも問題があったのではないかと考えています。私が一時期教鞭を執らせて頂いた某短期大学のように和声=4声体和声に固執していても確かに何の役に立つかわからないと思います。

私のフェイスブックアカウントでは講座の大まかな内容や様子を撮影した写真などが掲載されています。多くのピアノの先生方のご希望によってバッハのインヴェンション分析講座やアナリーゼができるようになる講座などを開講しておりますが、こうして作曲理論を応用することによって、受講される方々から以前より楽譜を読むことが楽しくなったという感想をしばしば頂くことがあり、こうした感想がとても嬉しいものです。



(同) 旋律や和音を弾いて、響きのイメージを言葉に置き換えさせている様子

「くまもと若い芽の作曲コンクール for Mandolin」入賞曲の公開演奏を終えて

甲田 弘志

「くまもと若い芽の作曲コンクール for Mandolin」の審査と入賞曲の公開演奏が終了しましたので、概要を報告させていただきます。

このコンクールは、私が音楽監督を務める熊本マンドリン協会の定期演奏会が一昨年に50回目を迎えたことを記念し社会貢献活動の一環として準備を進めて来たもので、締切りの2020年8月31日(月)までに、全国から49件(小学生23件、中学生15件、高校生11件)の作品を受け付けました。

審査委員長には熊本大学名誉教授で熊本交響楽団団員代表の山崎崇伸氏、審査委員は平成音楽大学准教授(作曲・音楽理論)の西林博子氏と私が担当し、金賞3作品と銀賞10作品を選出しました。

金賞には図書カード(小学生5,000円、中学・高校生10,000円)、銀賞にはベーレンライター製のスケッチ用五線ノートを贈り、更に銀賞作品の中から最年少・小学1年の作品を特別賞として選び五線鉛筆と有名作曲家肖像画入りクリアファイルを贈りました。そして金賞作品と特別賞作品の4曲については、10月31日(土)くまもと森都心プラザホールで開催した第52回定期演奏会の中で公開演奏を行いました。

今回の作曲コンクールは初めての試みでしたが、どの応募作品にも若い力と音楽への熱い情熱が感じられ感動いたしました。九州作曲家協会の先生方には応募の呼びかけ等ご支援いただきましてありがとうございました。

<審査結果>

- 金 賞＝小学生：林田貴汰作曲「孤独の踊り」(熊本県) 中学生：渡邊光作曲「夏海辺」(熊本県)
高校生：高木由穂作曲「旅芸人・朝市にて。」(熊本県)
- 銀 賞＝小学生：鈴木美音作曲「こころの旋律」(愛知県)、塩野莉紗作曲「莉莉ちゃんのおかし作り」(東京都)、山下いち乃作曲「また会おう」(熊本県)、久山拓人作曲「朝のあいさつ」(熊本県)、坂口結袖作曲「こうくんがダンボールでつくったきゅうきゅうしゃ」(熊本県)
中学生：福田将一朗作曲「A quiet summer」(熊本県)、中村咲月作曲「戯れる雪」(熊本県)、高木伶紗作曲「prayer ～祈り～」(熊本県)
高校生：武田祐里作曲「深迷」(熊本県)、日高陽暉作曲「Nach vorne 一前へ」(宮崎県)
- 特別賞＝坂口結袖作曲「こうくんがダンボールでつくったきゅうきゅうしゃ」

<ユーチューブ>

「くまもと若い芽の作曲コンクール for Mandolin」
入賞曲公開演奏 QR コード



<https://www.youtube.com/watch?v=CZHkVtYtg6k&feature=youtu.be>
(「くまもと若い芽の作曲コンクール入賞者」のHPからもユーチューブにリンクしています)
<http://kouda-318.sakura.ne.jp/coda.index/wakaimenyuusyou.html>

<公開演奏写真>



§ 賛助会員募集中 §

九州作曲家協会では会の趣旨に賛同し、所定の年会費を納める方(法人もしくは個人)を賛助会員として募集しています。年会費は法人会員一口10,000円、個人会員3,000円です。会員になると本会主催事業へのご招待、機関誌「ジャーナル」の受け取り、法人会員については本会主催事業プログラムに法人名掲載などの特典があります。詳しくは事務局にお問い合わせください。

§ 今後の協会事業のご案内 §

- 未 定 *新型コロナウイルスの状況により、この先検討いたしてまいります。
- *2021年3月28日に予定していた「コンポーザーズサミット令和」は延期いたします。